

教科名	国語	科目名	国語研究	対象学年	3 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	13	原稿用紙の使い方 小論文の書き方の基本	進路実現に向けて、志望理由書や小論文を記述する上での基本的な事柄を知る。原稿用紙に文章を書く際の基本的な注意事項を確認し、その上で相手に自分の意見を伝えるための文章を書くための要点を確認する。 序論・本論・結論の基本的な小論文構成に基づいて叙述する。その際、小論文において避けるべき事柄(常体と敬体の混用、口語表現の使用、尊敬語と謙譲語の誤用、等)について理解する。			
	7	随筆作品の制作・応募	基本的な文章の叙述方法を確認した上で、高校生を対象とした随筆作品のコンクールに応募する。原稿用紙の使い方に留意しながら、第三者に読まれることを意識した文章づくりを実践する。			
2 学期	15	「力をつける現代文」 小説／随筆／韻文／評論	高校卒業後の読書体験に繋がるよう、様々なジャンルや著者の文章に触れることで、自己の世界観を拡張する。 小説・随筆・韻文作品としては、川上弘美「春の憂鬱」／長野まゆみ「野川」／江國香織「僕はジャングルに住みたい」／津島佑子「快楽の本棚」、長田弘「ふろふきの食べかた」、評論文としては、池上彰「新聞はなぜ必要か」／竹西寛子『見る』に始まる」等を扱う。			
	15	敬語の使い方	適切な敬語の使い方について、改めて理解を深める。尊敬語・謙譲語・丁寧語の区別と使い方を確認し、文章を書いたり他者と応対したりする際に正しく使えるよう、教材や対話を通して学習する。			
3 学期	20	手紙の書き方 メールの書き方	社会に出てから必要となるビジネス文書について、その形式やメディアの特性を理解し、適切な文面を作成できるようにする。			
教科書/ 副教材	主教材「新訂版 正しく読み・解くための力をつける現代文 ステップ1」(数研出版) 副教材「字義で覚える常用漢字」(浜島書店)					
関連科目						
評価の 観 点	知識・技能	・ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている ・ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している ・ 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している				
	思考・判断・表現	・ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にしている ・ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて工夫している ・ 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している				
	主体的に学習に取り組む態度	・ 授業の際に必要な教材を準備している ・ 学習に臨むにふさわしい態度である ・ 学習内容に興味・関心を持っている ・ 自分なりに考えようとする姿勢を持っている				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	○	◎	20
	実験・実習(行動観察、技能)					
	テスト等		◎	◎	○	60
	レポート・ノート・課題等		○	○	○	15
	自己評価				○	5
	その他()					
留意事項						
備考						

教科名	国語	科目名	国語展開	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	国語における一般教養を身につけさせるとともに、日本語の総合的な力を高める。 現代の文学作品とは異なった魅力を持つ古典の作品に興味、関心を持たせる。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	1 0	国語に関する一般教養(漢字)	漢字検定受検対策を通じて、今までに習ってきた漢字力の定着を図る。			
	5	文章の書き方	原稿用紙の使い方から、基本的な文章の書きかたの決まりを身につける。 文字の使い分けを理解する。			
	5	文章表現の基礎	「話し言葉」「書き言葉」の区別・文体の統一を学ぶ			
2 学期	1 0	文章表現の実践	材料をそろえて、文章の組み立てを考える。 起承転結の段落にわけて、論旨をまとめる。			
	1 0	文章を書く (テーマ作文)	読み手にアピールできる表現法や言い回しを用いて、テーマに沿った作文を書く。			
	1 0	文章を書く (志望理由書)	志望動機・高校時代の活動等、短めの文章をまとめ、各々の進路に合わせた志望理由書を書く。			
3 学期	8	古典とは (古文)	歴史的仮名遣いや古文特有の語句等、読解する上で知らなければならない常識について解説し、身につける。 読みやすい随筆や説話を読み、知識の定着を図る。			
	8	古典とは (漢文)	基礎的な訓読法を身につける。 故事成語等の現在でも使われる言葉の由来を学び、漢文に興味・関心をもつ。			
	4	まとめ	年間の振り返り			
教科書/ 副教材	自主教材					
関連科目						
評価の 観 点	知識・技能	漢字や慣用表現を間違いなく覚えているか。 難読文章、難解な慣用表現を正しく読み、理解しているか。				
	思考・判断・表現	場面に応じてふさわしい言葉を選ぶことができるか。 指定された条件や単語を用いて、質問者の望んでいる文章を書くことができるか。				
	主体的に学習に取り組む態度	漢字検定に向け、自身の水準に合わせて学習することができるか。日常生活と授業で学習した言葉が密接に関係していることを理解、使用できるか。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	◎	○	2 5
	実験・実習(行動観察、技能)					
	テスト等		◎	◎	○	6 0
	レポート・ノート・課題等		○	◎	◎	1 0
	自己評価				○	5
その他 ()						
留意事項						
備考	日本漢字能力検定を全員受検予定					

教科名	地理歴史	科目名	歴 史 総 合	対象学年	3 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその他の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						

学 期	時数 (時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	6	国際秩序の変化や大衆化への問い	資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現すること。			
	6	第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解すること。			
	8	経済危機と第二次世界大戦	経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること。			
2 学期	1 0	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現すること。			
	1 0	グローバル化への問い	資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けること。 グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現すること。			
	1 0	冷戦と世界経済	脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解すること。			
3 学期	1 0	世界秩序の変容と日本	石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解すること。			
	1 0	現代的な諸課題の形成と展望	事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。			
教科書/ 副教材	教科書「詳述歴史総合」(実教出版) 副教材「詳述歴史総合 演習ノート」(実教出版)					
関連科目	科目「 歴史探究 」					
評価の 観 点	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその他の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。				
	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			◎	○	30
	実験・実習(行動観察、技能)		○		◎	5
	テスト等		◎	○		30
	レポート・ノート・課題等			◎	○	30
	自己評価			○	◎	5
	その他()					
留意事項	特になし					
備考	特になし					

教科名	地理歴史	科目名	地歴特講	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	中野・飯山・木島平など北信州の地理や歴史、地域資源を学び、地域との連携・つながりを考えるとともに、社会で生きていくための力を養う。						

学 期	時数 (時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	北信地域の地理と歴史	中野・飯山・木島平を中心に北信地域の歴史について、映像教材を用いながら、身近な地域の歴史や地域資源を理解するとともに、資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身に付けること。			
			地域との連携・つながりを考え、地域の課題や社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現すること。			
			事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、北信地域とその他の地域や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。			
2 学期	3 0	長野県の地理と歴史	北信をはじめとする長野県の歴史について、映像教材を用いながら、課題や魅力、特徴、地域資源を理解するとともに、資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身に付けること。			
			隣接県をはじめとする他県との連携・つながりを考え、長野県の課題と魅力を考察し、問いを表現すること。			
			事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、長野県と他県や全国の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。			
3 学期	2 0	北信越・中部地方の地理と歴史	北信越・中部地方の歴史について、映像教材を用いながら、課題や魅力、特徴、地域資源を理解するとともに、資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身に付けること。			
			他県・他地方との連携・つながりを考え、地域の課題や社会の変容などに着目して、主題を設定し、長野県と他県や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各県の特徴、地方財政などを多面的・多角的に考察し、表現すること。			
			事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、北信越・中部地方と他地方や全国の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。			
教科書/ 副教材	なし					
関連科目	科目「歴史総合」					
評価の 観 点	知識・技能	地域の歴史の変化に関わる諸事象について、日本とその中の長野県を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる地域の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	地域の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。				
	主体的に学習に取り組む態度	地域の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される長野県民としての自覚、郷土の歴史に対する愛情、他県や他県の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			◎	○	30
	実験・実習(行動観察、技能)		○		◎	5
	テスト等		◎	○		30
	レポート・ノート・課題等			◎	○	30
	自己評価			○	◎	5
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	公民	科目名	政治・経済	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 (3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。						

学 期	時数 (時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	現代日本の政治・経済	政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めること。			
			民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現すること。			
2 学期	1 5	現代日本における政治・経済の諸課題の探究	少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述すること。			
			国際社会の変遷、人権、国家主権、領土(領海、領空を含む。)などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めること。			
	1 5	現代の国際政治・経済	国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現すること。			
3 学期	2 0	グローバル化する国際社会の諸課題の探究	グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述すること。			
教科書/ 副教材	教科書「最新 政治・経済」(実教出版) 副教材「最新 政治・経済 演習ノート」(実教出版)					
関連科目	科目「公共」					
評価の 観 点	知識・技能		社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。			
	思考・判断・表現		国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養っている。			
	主体的に学習に取り組む態度		よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などが深まっている。			
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			◎	○	30
	実験・実習(行動観察、技能)		○		◎	5
	テスト等		◎	○		30
	レポート・ノート・課題等			◎	○	30
	自己評価			○	◎	5
その他()						
留意事項	特になし					
備考	特になし					

教科名	理科	科目名	地学基礎	対象学年	3 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	固体地球とその変動	活動する地球に関する探究活動を行い、その学習内容の理解を深めるとともに、地学的に探究する能力を高める。 プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について理解する。 火山活動と地震の発生のしくみについて理解する。			
2 学期	3 0	移り変わる地球	地層が形成される仕組みと地質構造について理解する。 古生物の変遷と地球環境の変化について理解する。			
		大気と海洋	大気の構造と地球全体のエネルギー収支について理解する。 大気の大循環と海水の運動及びそれらによる地球規模の熱の輸送について理解し、日本で見られる季節の気象について学ぶ。			
3 学期	2 0	宇宙の構成	宇宙の誕生と地球の形成について観察、実習などを通して探究し、宇宙と惑星としての地球の特徴を理解する。			
		自然との共生	地球環境の変化を科学的に考察する。 日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりについて考察する。			
教科書/ 副教材	教科書「地学基礎 改訂版」(啓林館) 副教材「サンダイヤル Navi&トレーニング地学基礎」(啓林館)					
関連科目	科目「地学」					
評価の 観 点	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。				
	主体的に学習に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。 自然環境の保全に寄与する態度が養われている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	◎	◎	10
	実験・実習(行動観察、技能)		○	○	◎	10
	テスト等		◎	◎	○	60
	レポート・ノート・課題等		○	◎	◎	15
	自己評価				○	5
	その他()					
留意事項	実験においては、自身と他人の身の安全を優先すること。					
備考						

教科名	理科	科目名	生物	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	6	生命の起源と生物の進化 遺伝子の変化と多様性	生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。 生物の形質の変化は、遺伝子の変化によって生じることを理解する。			
	8	進化のしくみ 生物の系統と進化	遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。 生物が、系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。			
	6	生体物質と細胞 タンパク質の構造と性質 タンパク質の種類と機能	細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。 細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。			
2 学期	10	代謝とエネルギー 呼吸と発酵、光合成	生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。			
	10	DNA の構造と複製 遺伝情報の発現と調節と発生 遺伝子を扱う技術	DNA について、2本のヌクレオチド鎖の詳しい構造を理解する。 DNA の遺伝情報を写し取ってRNAが、転写されたRNAからタンパク質が合成されるしくみを理解する。 遺伝子を扱うさまざまな技術が、私たちの生活に与える影響を理解する。			
	10	刺激の受容 ニューロンと情報の統合 刺激への反応 動物の行動	受容器の種類によって、刺激を受け取るしくみが異なることを理解する。 ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であり、イオンチャネルやポンプのはたらきで生じることを理解する。 動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。			
3 学期	6	植物の生活と植物ホルモン 発芽の調節 成長の調節	植物は、周囲の環境の変化を感知して、自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。環境からの情報の伝達には、植物ホルモンがはたらいていることを理解する。			
	6	器官の分化と花芽形成の調節 環境の変化に対する応答 配偶子形成と受精	植物の器官の分化は、成長の段階や環境の変化に応じて調節されていることを理解する。 被子植物における配偶子形成と受精のしくみを理解する。			
	8	個体群の構造と個体間の関係 異なる種の個体群間の関係 生態系と人間生活	動物の個体群内の個体どうしで、どのような関係が見られるか理解する。 生物群集の中で多様な生物種が共存できるしくみを理解する。 人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。			
教科書/ 副教材	教科書「生物」(数研出版) 副教材「生物 準拠ノート教科書の整理」(数研)					
関連科目	科目「生物基礎」					
評価の 観 点	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な機能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。				
	主体的に学習に 取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然現象の保全に寄与する態度を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	◎	10
	実験・実習(行動観察、技能)		○	○	◎	10
	テスト等		◎	◎		60
	レポート・ノート・課題等		○	◎	◎	15
自己評価				○	5	
留意事項	実験においては、自身と他人の身の安全を優先すること。また、実験対象生物への慈愛を持つこと。					
備考	2年次専門科目の地域資源活用にて、野菜や草花の栽培や生理生態について履修しており、生物の「植物の器官の分化や花芽形成の調節・被子植物における配偶子形成や受精の仕組み」と同様の内容となる。また、地域の自然環境について履修しており、生物の「生態系と人間活動」と同様の内容となる。					

教科名	理科	科目名	化学活用	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	化学に関わる基本的な計算を習得する。また、化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	化学基礎復習 化学で扱う計算	2年次に学んだ元素記号や化学反応式の復習を行う。 濃度計算, 物質質量に関わる計算, それにかかわる数学の基本事項について確認する。			
		酸・塩基/酸化・還元/電池・電気分解	酸塩基や電池の仕組みについて理解するとともに、日常生活や社会と関連付けて考察する。			
2 学期	3 0	物質の状態	気体, 液体, 固体の性質を観察, 実験などを通して探究し, 物質の状態変化, 状態間の平衡, 溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに, それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。			
		物質の変化と平衡	化学反応に伴うエネルギーの出入り, 反応速度及び化学平衡を観察, 実験などを通して探究し, 化学反応に関する概念や法則を理解するとともに, それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。			
		無機物質	無機物質の性質や反応を観察, 実験などを通して探究し, 元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解するとともに, それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。			
3 学期	2 0	有機化合物	有機化合物の性質や反応を観察, 実験などを通して探究し, 有機化合物の分類と特徴を理解するとともに, それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。			
		高分子化合物	高分子化合物の性質や反応を観察, 実験などを通して探究し, 合成高分子化合物と天然高分子化合物の特徴を理解するとともに, それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。			
教科書/ 副教材	教科書「改訂版 化学」(数研出版) 副教材「フォローアップドリル化学基礎 一酸・塩基/酸化・還元/電池・電気分解」(数研出版)					
関連科目	科目「 化学基礎 」					
評価の 観 点	知識・技能	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則を理解している。 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈などの探究の方法を習得している。 報告書を作成したり、発表したりして、科学的に探究する力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に対して、主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする。また、科学的に探究しようとする。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	◎	1 0
	実験・実習(行動観察、技能)		◎	○	◎	1 0
	テスト等		◎	◎		6 0
	レポート・ノート・課題等			◎	○	1 5
	自己評価				◎	5
	その他 ()					
留意事項	実験の際には、班で協力し、ケガや事故のないように自身と他人の身の安全を優先すること。					
備考						

教科名	保健体育	科目名	体育	対象学年	3 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	3 単位	時 数	1 0 5
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	3 0	体づくり運動 陸上競技 体育理論	集団行動、体力を高める運動、持久走を行う			
		ソフトボール バレーボール	基本的な技能やルールを学び、ソフトボールやバレーボール特有の競技を楽しむことができるようになるを行う。			
		水泳	クロールと平泳ぎを中心として、基本的な泳ぎ方を学ぶことができるようになるを行う。また、水辺での活動における注意点を学ぶ。			
2 学期	4 5	バドミントン	基本的な技能やルールを学び、バドミントン特有の競技を楽しむことができるようになるを行う。			
		バスケットボール	基本的な技能やルールを学び、バスケットボール特有の競技を楽しむことができるようになるを行う。			
		サッカー・フットサル	基本的な技能やルールを学び、サッカー・フットサル特有の競技を楽しむことができるようになるを行う。			
3 学期	3 0	バレーボール 卓球 ダンス	基本的な技能やルールを学び、バレーボールや卓球特有の競技を楽しむことができるようになるを行う。 現代的なリズムのダンスを中心に行う。			
		体育理論	運動・スポーツの文化的特徴について扱う			
		まとめ	まとめ			
教科書/ 副教材						
関連科目	科目「保健」					
評価の 観 点	知識・技能	運動の特性やルールを理解し、合理的・計画的・公正・安全に実践できる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	運動を継続的するための課題を発見し、課題解決に向けての実践と、他者に伝える能力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	自己の果たす責任を理解し、協働や積極的に参画する能力を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	準備・片付け		○	◎	◎	2 0
	個人的技能(行動観察、技能)		◎	◎	◎	3 0
	集団的技能(行動観察、発言、話し合い等)		◎	◎	◎	3 0
	レポート・ノート・課題等		◎	◎	◎	1 0
	自己評価				◎	1 0
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	保健体育	科目名	コミュニケーションスポーツ	対象学年	3 学年	履 修	選 択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	ソフトボール (軟式野球)	投、打、走、捕などバランスのとれた運動能力を身につける。			
		バレーボール	相手の動きに応じて、作戦を考え連携したチームプレイが展開できる。生涯スポーツとして、技能を身につける。			
		水泳 ニュースポーツ	各泳法の特性を理解し、基本的な泳ぎ方を学ぶことが出来るように行う。 ニュースポーツから種目を選択し、種目の特性を理解しプレイを楽しむ技能を身に付ける。			
2 学期	3 0	バスケットボール	基本的運動要素、判断力、敏捷性、巧緻性を身につける。 健康のために行う生涯スポーツとしての技能を身につける。			
		サッカー(フットサル)	持久力、対人プレイの瞬発力・筋力及び判断力を身につける。 生涯スポーツとして、技術を身につける。			
		バドミントン	基本的運動要素、判断力、敏捷性、巧緻性を身に付ける。 健康のために行う生涯スポーツとしての技能を身に付ける。			
3 学期	2 0	卓球	基本的運動要素、判断力、敏捷性、巧緻性を身に付ける。 健康のために行う生涯スポーツとしての技能を身に付ける。			
		ニュースポーツ	ニュースポーツから種目を選択し、種目の特性を理解しプレイを楽しむ技能を身に付ける。			
		まとめ	1年間のまとめ			
教科書/ 副教材						
関連科目	科目「保健」					
評価の 観 点	知識・技能	運動の特性やルールを理解し、合理的・計画的・公正・安全に実践できる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	運動を継続的するための課題を発見し、課題解決に向けての実践と、他者に伝える能力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	自己の果たす責任を理解し、協働や積極的に参画する能力を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	準備・片付け		○	◎	◎	2 0
	個人的技能(行動観察、技能)		◎	◎	◎	3 0
	集団的技能(行動観察、発言、話し合い等)		◎	◎	◎	3 0
	レポート・ノート・課題等		◎	◎	◎	1 0
	自己評価				◎	1 0
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	英語	科目名	実用英語	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	日常生活を想定して、様々な表現を習得し、文化的背景を理解して、外国人に積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。またリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4技能を偏ることなく、バランスよく学ぶ。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	8	基礎構文	基礎的な構文や表現について、問題演習を通じて学ぶ。			
	5	日常生活	チラシや日常で使われる短い英文の内容を読む練習を通して、目的に応じた読む取る力を高める。			
	7	意見の主張	意見をその理由とともに伝えるライティング技術を学ぶ。 予定や条件を伝えるための表現を使う練習を行う。			
2 学期	10	時事問題	現代社会の様々な話題について、記事を読んだりニュースを聞いたりすることを通して学ぶ。			
	10	SDGs	社会の様々な課題について、記事を読んだりプレゼンテーションを聞いたりすることを通して学ぶ。 社会の様々な課題のうち、興味のあるものについて調査を行い、解決のために何をすべきか、意見を発表する。			
	10	異文化	世界の様々な文化について、記事を読んだりニュースを聞いたりすることを通して学ぶ。 日本文化と比較することで、理解を深める。			
3 学期	10	将来の目標	卒業後の目標について、目標達成に向けてやるべきことを考え、書いてまとめたり発表したりする。			
	10	スポーツ・文化活動	スポーツや文化活動について、記事を読んだりニュースを聞いたりすることを通して学ぶ。			
教科書/ 副教材	教科書 なし 副教材 指定なし					
関連科目	なし					
評価の 観 点	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深め、これらの知識を日常生活での「聞く、読む、話す、書く」ことによるコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。				
	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について英語で、その意図を的確に理解し、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。				
	主体的に学習に 取り組む態度	英語の背景にある文化への理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			○	○	10
	実験・実習(行動観察、技能)		○	○	◎	10
	テスト等		◎	◎		60
	レポート・ノート・課題等		○		◎	15
	自己評価				○	5
	その他()					
留意事項	授業での発表に向けての資料作成など、課題は全て完了・提出すること。					
備考	外部検定試験の受験を推奨し、サポートする。					

教科名	農業	科目名	課題研究	対象学年	3 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	産業創造コース 環境創造コース	単位数	5 単位	時 数	175
目 標 (生徒につけたい力等)	農業・畜産・林業・食品・環境等、専門分野に関する課題を設定し、その解決を図る学習を通じて専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力と創造的な学習態度を育てる。また、この成果を発表することにより、プレゼンテーション能力の向上を図る。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	5 0	課題研究のテーマ設定	・ 専門分野に関係するテーマの設定 ・ テーマ設定に伴う研究計画の策定			
		調査・研究・製作	・ テーマに基づいた調査、研究、製作など ・ 調査、研究の記録のまとめ			
2 学期	7 5	調査・研究・製作	・ テーマに基づいた調査、研究、製作など ・ 調査、研究の記録のまとめ ・ 研究、製作などまとめや完成に向けた中間発表			
3 学期	5 0	課題研究のまとめと発表	・ 調査、研究、製作などのまとめ ・ 調査、研究、製作などについてプレゼンテーション			
教科書/ 副教材						
関連科目	科目「地域資源活用」					
評価の 観 点	知識・技術	専門分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた知識・技術を身に付けられたか。				
	思考・判断・表現	課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養えたか。				
	主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができたか。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	◎	2 5
	実験・実習(行動観察、技術)		○	○	◎	4 0
	テスト等		○	○		5
	レポート・ノート・課題等		○	◎	○	2 5
	自己評価				○	5
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	農業	科目名	総合実習	対象学年	3 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	産業創造コース	単位数	3 単位	時 数	1 0 5
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 農業の総合的な経営や管理につながる知識と技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)		
1 学期	3 5 時間	栽培分野	・野菜や草花の栽培実習を通して、栽培に関する知識と技術を身につける。 ・実験、調査研究を行い、レポートを作成する。		
2 学期	4 5 時間	畜産分野	・畜産の実習を通して、飼育に関する知識と技術を身に付ける。 ・実験、調査研究を行い、レポートを作成する。		
3 学期	2 5 時間	食品分野	・農産物の加工実習、実験を通して、食品に関する知識と技術を身につける。 ・実験、調査研究を行い、レポートを作成する。		
教科書/ 副教材					
関連科目	科目「地域資源活用」「食品製造」				
評価の 観 点	知識・技術	農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。			
	思考・判断・表現	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身に付いている。			
	主体的に学習に取り組む態度	農業の総合的な経営や管理につながる知識と技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。			
評価の 観点・方法	観点・方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	1 0
	実験・実習(行動観察、技術)	○	○	◎	4 0
	テスト等	○			1 0
	レポート・ノート・課題等		◎	○	2 0
	自己評価			◎	1 0
	その他(意見文・農業鑑定)	◎	◎		1 0
留意事項	意見文未提出の場合、評定「1」				
備考					

(令和5年度入学生適用)

教科名	農業	科目名	農業経営	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけ たい力等)	農業経営に必要な知識や技術の学習を行う。特に簿記に関する学習を中心にを行い、全経簿記3級に相当する内容について理解を深め、帳簿への記帳が行える能力を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	農業の動向と農業経営	我が国と世界の農業 地域農業の動向 農業経営と社会経済環境			
		簿記の基本	貸借対処言う表 損益計算表 仕分け			
2 学期	3 0	簿記の基本	総勘定元帳 試算表 決算			
		各種取引	現金・現金化不足の記帳 預金の記帳 小口現金 商品売買の記帳 掛け取引の記帳 手形取引の記帳			
3 学期	2 0	各種取引	その他の債権・債務の記帳 有価証券の記帳 固定資産の記載			
教科書/ 副教材	教科書「農業経営」(実教出版) 副教材「標準簿記検定問題集」(東京法令出版)					
関連科目						
評価の 観 点	知識・技術	日本農業の現状と問題点を理解する 簿記の基本的な事柄を理解す				
	思考・判断・表現	簿記について具体的な取引から仕分け、帳簿への記載などを行う				
	主体的に学習に 取り組む態度	簿記についての問題を解きながら、理解を深め記帳する技術を習得する				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	◎		30
	実験・実習(行動観察、技術)		○		◎	20
	テスト等		◎	◎		40
	レポート・ノート・課題等				○	10
	自己評価					
	その他 ()					
留意事項	簿記についての学習が中心となるので、電卓の準備が必要					
備考						

(令和5年度入学生適用)

教科名	農業	科目名	農業機械	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	機械系資格の取得を目指し学習を進める。資格取得に必要な知識、技術の習得を行い、合わせて社会人としての態度・マナーを身につけさせる。また、農業機械の操作技術の学習も行う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2	資格取得に向けての心構え	取り組むにあたっての態度やマナーを学ばせる。			
	6	小型移動式クレーンの運転操作	移動式クレーンの運転操作方法を学習する。			
	6	フォークリフトの運転に関する知識	フォークリフト運転操作に必要な知識を学習する。			
	6	フォークリフト運転操作	フォークリフトの操作方法を学習する。			
2 学期	8	フォークリフトの運転操作	フォークリフトの操作方法を学習し、技能の上達を図る。			
	8	フォークリフトの運転操作荷役作業	フォークリフトの走行に続き、荷役作業の上達を語る。			
	7	機械整備の基礎	機械整備に関わる基本的な工具や燃料、潤滑油などについての学習を行う。			
	7	バックホーの運転操作	車両系建設機械取得に向けて、バックホーの運転操作を学習する			
3 学期	7	バックホーの運転操作	車両系建設機械取得に向けて、バックホーの運転操作を学習する。			
	7	作業の安全	安全な作業を行えるための知識を身につける。			
	6	関係法令	法令について学び、法令順守などの基本的な知識を身につける。			
教科書/ 副教材	教科書「農業機械」(実教出版) 副教材「 」()					
関連科目	科目「 」					
評価の 観 点	知識・技術	機械について体系的、系統的に知識を学び、関連する技術を身につけている。				
	思考・判断・表現	機械に関する課題を発見し、農業などの関連産業に創造的な解決方法を身につけている。				
	主体的に学習に取り組む態度	機会についての特性を理解し、効率的な利用方法について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○	15
	実験・実習(行動観察、技術)		○	○	◎	20
	テスト等		◎	○		20
	レポート・ノート・課題等		○	◎	○	20
	自己評価				○	5
	その他 ()					
留意事項	(例) 実習を行う際の注意事項等					
備考	(例) 関連資格などその他伝達事項等					

教科名	農業	科目名	地域資源活用	対象学年	3 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	産業創造コース	単位数	4 単位	時 数	1 4 0
目 標 (生徒につけたい力等)	1 地域資源の活用について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2 地域資源の活用に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 4 地域交流を通し、より高い社会性を身につけさせる。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)		
1 学期	2 0	地域資源活用とプロジェクト学習	プロジェクト学習の進め方		
	2 0	地域資源活用の意義と役割	地域資源の魅力と価値 地域資源活用の実践と課題 情報の活用と実践		
2 学期	3 0	地域資源の価値と活用	観光への活用 商品開発への活用 サービス業への活用 教育・福祉への活用		
	3 0	地域と連携した活動	地域資源のマーケティングとブランドづくり 地域資源を活用したサービス 活動の評価について		
3 学期	4 0	地域資源活用の実践	保育園・幼稚園との交流 小学校との交流 中学校との交流 養護学校との交流 大人との交流 高齢者との交流		
教科書/ 副教材	教科書「地域資源活用」(実教出版) 「野菜」(実教出版) 「畜産」(実教出版)				
関連科目	科目「総合実習」				
評価の 観 点	知識・技術	地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識・技術が身に付いたか。			
	思考・判断・表現	地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として、合理的かつ創造的に解決する力が養えたか。			
	主体的に学習に取り組む態度	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が養えたか。			
評価の 観点・方法	観点・方法	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)	◎	○	○	2 0
	実験・実習(行動観察、技術)	◎	○	○	3 0
	テスト等	◎	○		2 0
	レポート・ノート・課題等	○	◎	○	2 0
	自己評価			◎	1 0
	その他()				
留意事項					
備考					

教科名	農業	科目名	地域資源活用	対象学年	3 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	環境創造コース	単位数	4 単位	時 数	1 4 0
目 標 (生徒につけたい力等)	地域の歴史や産業、自然及び観光について学び、地元の様々な実践教材の活用を通して、地域資源の活用の意義や役割を実践的に学んでいく。 テーマ別の研究活動や実習、フィールドワークを通し、科目「課題研究」と連携して学びの深化を図るとともに、地域資源の発掘に主体的かつ協働的に取り組む基盤を育てる。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	20	地域資源活用の実践	竹林整備 バンブーキャンドルデザイン作成 ワークショップの企画			
	20	地域資源の発掘	テーマ別の研究活動や実習 外来生物 在来生物 野生動物 林産物の利用			
2 学期	20	地域資源活用の実践	バンブーキャンドルデザイン作成 ワークショップの企画・実践			
	40	地域資源の発掘	テーマ別の研究活動や実習 外来生物 在来生物 野生動物 林産物の利用			
	10	対人サービスのマナーと安全管理	ワークショップ実践にあたり知識を深める			
3 学期	40	商品開発	テーマ別の研究活動や実習			
教科書/ 副教材	教科書「地域資源活用」(実教出版)					
関連科目	科目「総合実習、マーケティング、課題研究 (3年)、」					
評価の 観 点	知識・技術	地域資源の活用について体系的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、関連する技術を身に付けたか。				
	思考・判断・表現	地域資源の活用に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力が身に着いたか。				
	主体的に学習に取り組む態度	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む力が身に着いたか。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	○	○	2 0
	実験・実習(行動観察、技術)		◎	○	○	3 0
	テスト等		◎	○		2 0
	レポート・ノート・課題等		○	◎	○	2 0
	自己評価				◎	1 0
	その他 ()					
留意事項						
備考						

教科名	農業	科目名	情報技術	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	情報通信ネットワークの活用した情報の収集・処理・発信などの実習を通して、情報の主体的な活用技術と実践力を身につけるとともにこの分野に関する資格取得を目指す。また、情報通信ネットワークなどの利用上の配慮すべき事項や日常生活に及ぼす影響などの学習を通して、情報化社会に参加する資質と態度を身につける。農業に関連するシステムや、情報技術の活用に着目し、探究的かつ協働的にシステム構築を目指す活動を通してプログラミング的思考を養い、スマート農業への理解を深めることを目指す。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	1	オリエンテーション 教科としての目標	使用機器についての注意点。 年間の計画と目標			
	7	情報のモラルとセキュリティ	情報化社会で生活していくうえでの注意			
	12	文書の作成と表現	日本語ワープロ検定 (3・2級) 問題集を利用した練習 文書デザインコンテスト応募作品づくり			
2 学期	6	文書の作成と表現	文書デザインコンテスト応募作品づくり			
	6	データの集計と視覚化	情報処理検定 (3・2級) 問題集を利用した練習			
	6	農業における情報活用	農業における情報通信 農業をとりまく情報			
	6	農業情報の分析と活用	情報の分析と問題解決 情報技術の農業への利用			
	6	スマート農業	農業の課題と先端技術の活用 データとスマート農業			
3 学期	5	検定に向けての練習	プログラミングの基礎学習 プログラミング技能検定 (4～2級) 問題集を利用した練習			
	5	プログラムの設計	プログラム設計、計測と制御			
	10	プロジェクト学習とレポート	農業を題材とした探究的なプログラミング学習 レポートの作成			
教科書/ 副教材	教科書「農業と情報 新訂版」(実教出版) 副教材「30 時間マスターシリーズ」(実教出版) 「日本語ワープロ・情報処理・プログラミング技能検定 模擬問題集」(日本情報処理検定協会)					
関連科目	科目「農業と情報」「課題研究」					
評価の 観 点	知識・技術	各種ソフトウェアの活用について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 基礎的なプログラミングについて理解し、関連する技術を身に付けている。				
	思考・判断・表現	情報を分析し、論理的に考え評価することができる。農業をシステム化するための考え方や、課題に対して科学的な根拠などに基づいて創造的に解決できる力を身に付けている。				
	主体的に学習に 取り組む態度	情報の収集、整理、分析、システムの構築など自ら探究し、授業や実習、グループワーク等に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		○	○	○	15
	実験・実習(行動観察、技術)		○	○	◎	20
	テスト等		◎	○		30
	レポート・ノート・課題等		○	◎	○	30
	自己評価			○	○	5
	その他 ()					
留意事項	(例) 実習を行う際の注意事項等					
備考	(例) 関連資格などその他伝達事項等					

教科名	農業	科目名	スマート林業	対象学年	3 学年	履 修	必修
対象学科	地域創造農学科	コース	環境創造コース	単位数	3 単位	時 数	105
目 標 (生徒につけたい力等)	ICT による技術開発により林業の低コスト化や収益性の向上について学ぶとともに高性能林業機械の利用法や安全性の確保について学習する。 水準測量とドローン測量を利用し、林道設計を行い急速に変化している新しい林業について知識を深める。 鳥獣害対策を目的としたフィールドワークを行い、演習林の被害状況のマップを製作し、実態を調査する。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	20	林道設計	水準測量 据え付けと視準 器械・器具 レベル検査・調整			
	15	鳥獣害対策	生物被害調査について フィールドワーク 画像解析			
2 学期	35	林道設計	水準測量 昇降式・器高式 ドローン操作 ドローンによる測量			
	10	鳥獣害対策	生物被害調査について フィールドワーク 画像解析			
3 学期	15	林道設計	誤差の修正			
	10	高性能林業機械	操作方法の習得と実践			
教科書/ 副教材	教科書「森林科学」(実教出版)					
関連科目	科目「森林科学」					
評価の 観 点	知識・技術	林業について体系的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、関連する技術を身に付けたか。				
	思考・判断・表現	林業に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力が身に着いたか。				
	主体的に学習に 取り組む態度	林業の総合的な管理につながる知識と技術が身に付くように自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む力が身に着いたか。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)		◎	○	○	20
	実験・実習(行動観察、技術)		◎	○	○	30
	テスト等		◎	○		20
	レポート・ノート・課題等		○	◎	○	20
	自己評価				◎	10
	その他 ()					
留意事項	(例) 実習を行う際の注意事項等					
備考	(例) 関連資格などその他伝達事項等					

教科名	家庭	科目名	保育基礎	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	70
目 標 (生徒につけたい力等)	乳幼児の心身の発達と生活、子どもの遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援についての理解を深め子どもの発達に応じて適切にかかわるための知識・技能を身につける。また、子どもを産み育てることの意義や保育の重要性について考え、子どもの健やかな発達を支えるために、親や家族、地域社会の果たす役割の重要性を考察し、子どもとの適切なかわり方を考える。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	1 0	子どもの保育	子どもを産み育てることや保育の重要性について考え、保育者の役割について理解すること。			
	1 0	子どもの発達	子どものからだや心の発達の特性を理解し、発達段階に応じて適切にかかわるための知識や技能を身につけること。			
2 学期	1 5	子どもの発達	子どものからだや心の発達の特性を理解し、発達段階に応じて適切にかかわるための知識や技能を身につけること。			
	5	子どもの生活	子どもの生活と養護について理解を深め、生活習慣の形成にかかわる保育者の役割について理解すること。			
	1 5	子どもの文化	子どもの遊びと表現活動についての理解を深め、児童文化財を製作し保育園実習等で活用すること。			
3 学期	1 5	子どもの福祉	子ども観の変遷と、子どもを取り巻く課題と対策について理解を深めるとともに、権利の主体としての子どもに対する福祉支援がおこなわれる重要性について理解すること。			
	5	子育て支援	子どもが育つ社会環境と子育て支援制度との関連について考察するとともに、社会的養護の視点から支援がおこなわれる必要性について理解すること。			
教科書/ 副教材	教科書「保育基礎」(教育図書) 副教材「生活ハンドブック 資料&成分表」(第一学習社)					
関連科目	科目「家庭総合」					
評価の 観 点	知識・技能	保育について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている。				
	思考・判断・表現	保育に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養っている。				
	主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、よりよい社会の構築に向けて主体的にかつ協動的に取り組む態度を養っている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			○	○	1 0
	実験・実習(行動観察、技能)		◎	○	◎	3 0
	テスト等		◎	○	○	3 0
	レポート・ノート・課題等		○	○	○	2 5
	自己評価				○	5
	その他 ()					
留意事項	(例) 実習を行う際の注意事項等					
備考	(例) 関連資格などその他伝達事項等					

教科名	福祉	科目名	社会福祉基礎	対象学年	3 学年	履 修	選択
対象学科	地域創造農学科	コース		単位数	2 単位	時 数	7 0
目 標 (生徒につけたい力等)	(1) 社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

学 期	時数(時間)	学 習 項 目 (何を学ぶのか)	学 習 内 容 (どのように学ぶのか)			
1 学期	2 0	社会福祉の理念と意義	社会や産業全体の課題及びその解決のために福祉が果たしている役割、働くことの社会的意義や役割、職業人に求められる倫理観を理解すること。			
			家庭生活の機能や概要、人間の生活と社会との関わり及び少子高齢化の進行と介護の社会化との関連について理解すること。			
			人間の尊厳と自立支援の必要性について、権利擁護の視点を踏まえて理解すること。			
2 学期	1 5	人間関係とコミュニケーション	対人援助に必要な人間の理解や人間関係を構築するための技法などについて理解し、対人関係形成のためのコミュニケーションの意義や役割、 コミュニケーションの基礎的な技法などを身に付けること。			
	1 5	社会福祉思想の流れと福祉社会への展望	社会福祉援助活動の意義や役割などについて学び、リーダーシップや組織の在り方などチームマネジメントについて理解すること。			
3 学期	2 0	生活を支える社会保障制度	欧米や日本において社会福祉思想が発展してきた過程について理解すること。また、地域福祉の考え方や進展、近年の外国の状況などについての学習を通して、国際的な視点で社会福祉を捉えること。			
教科書/ 副教材	教科書「社会福祉基礎」(実教出版) 副教材「社会福祉基礎 学習ノート」(実教出版)					
関連科目	科目「社会福祉演習」					
評価の 観 点	知識・技能	社会福祉について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。				
	思考・判断・表現	社会福祉の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養っている。				
	主体的に学習に取り組む態度	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養っている。				
評価の 観点・方法	観点・方法		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	割合 (%)
	座学(学習観察、発言、話し合い等)			◎	○	30
	実験・実習(行動観察、技能)		○		◎	5
	テスト等		◎	○		30
	レポート・ノート・課題等			◎	○	30
	自己評価			○	◎	5
	その他()					
留意事項	(例) 実習を行う際の注意事項等					
備考	(例) 関連資格などその他伝達事項等					